

富山経済同友会

会報

2021.9月
No. 303



富山市立城山中学校 課外授業（7月8日）

CONTENTS

- 7月会員定例会 2
- 【講演録】7月会員定例会（大野 均 氏） ... 2
- 全国経済同友会東日本大震災10周年追悼シンポジウム... 7
- 第1回地域創生委員会 8
- 第1回教育問題委員会 8
- 第1回人財活躍委員会 9
- 第2回企画総務委員会 9
- 第1回文化スポーツ委員会 10
- 企業経営委員会（第3回，第4回） 11
- 教育講演会等講師派遣 12
- 課外授業講師派遣 13
- リレーエッセイ¹⁰⁴（佐藤 幸博 氏） 16
- 活動報告 17
- 会員の入退会 19
- 第23回富山景気定点観測アンケート結果 ... 23
- 今後の予定 23
- わが青春の1枚（福田 可也 氏） 24

自分になすべき役割を完璧にやり抜く！

大野 均 氏講演 — 7月会員定例会 —

7月会員定例会が7月15日(木)、オークスカナルパークホテル富山で開催され、元ラグビー日本代表の大野 均氏が「弱小チームからワールドカップで勝つまで」と題して講演を行った。講演会は文化スポーツ委員会(島田好美委員長)が主管し、東京と会場をオンラインで結ぶリモート登壇の形で行われ、Zoom 視聴を含め会員約120名が参加した。

大野氏はまず、ラグビーの面白さやプレーの特徴などラグビーの魅力を説明した後、自身のラグビーとの出会いを紹介。大学の弱小チームで、先輩の熱烈的な勧誘を受けてラグビーを始め、仲間のために体を張る、ラグビーの根底に必要なタフさを身につけたこと、そして、周りの支えによって社会人強豪チームでプレーするチャンスをつかむことができたことを語った。

続けて、初めてのW杯では独特の緊張感の中で勝利への欲が生まれ、2度目は勝利を逃した

悔しさに雪辱を誓い、さらに、大義をなす覚悟を決め過酷なハードワークを乗り越えた結

果、「世紀の番狂わせ」で世界に大きなインパクトを与えることができたこと、日本代表として出場した3度のW杯を振り返った。

最後に、自分になすべき役割を完璧にやり抜くことが「チームワーク」であり、誰かのために、感謝の気持ちで、本気になり、覚悟を持って取り組むことで、自身の成長につながり、人の心を強くつかむことができるとしたうえで、「ラグビーを通じて、困難に立ち向かう勇気を共感してほしい」と講演を締めくくった。



7月会員定例会 (2021. 7. 15) 講演録

「弱小チームからワールドカップで勝つまで」

講師：元ラグビー日本代表／東芝ブレイブルーパス普及担当 大野 均 氏



高校までは野球一筋、巨人が大好きで、同じ福島県出身の中畑清さんが私のヒーローでした。ずっと補欠でしたが、甲子園を目指し、早朝練

(プロフィール)

1978年生まれ。福島県郡山市出身。高校までは野球部に所属。進学した日本大学工学部でラグビーを始める。卒業後、東芝ブレイブルーパス入団。2004年日本代表初選出。2007年、2011年、2015年と3大会のW杯に出場。2015年イングランド大会では、南アフリカを破る金星に貢献。国際試合98試合出場は歴代最多。ジャパンラグビートップリーグでは170試合に出場し、ベストフィフティーンに9度選出。2009-2010シーズン トップリーグMVP受賞。2020年現役引退。

習から居残り練習まで人一倍練習をしていました。卒業後も野球を続けようと思っていましたが、大学入学直後に、自分の運命を大きく変え

KOUENROKU

るラグビーとの出会いがありました。

◆ ラグビーの魅力

ラグビーは15人対15人、前・後半40分の計80分間で行われます。ボールを前に運ばないといけないのに、前には投げられないという理不尽さがラグビーの面白さでもあります。体のぶつかり合いが多く、ボールを介した格闘技とも言われます。タックルで体の小さな選手が大きな選手を一発で倒す様は、ルールを知らない人でも熱くなるシーンです。

フォワードの8人が塊となって相手と押し合うスクラム、その重量は900キロ以上にもなります。ラインアウトでは、投げ入れられたボールを取るためジャンプする選手をさらに下から持ち上げることで、最高到達点は3.8メートル以上にもなります。バックスの7人は、高いパススキルとスピードで相手のディフェンスを切り裂き、得点に結びつけます。

2019年に「ワンチーム」が流行語となりましたが、様々な国の選手で構成された日本代表がワールドカップ（W杯）で、思いを一つにして体を張り、勝利に向かう姿に日本中が共感したからだだと思います。ポジションや体格、出身国も多様な選手たちが激しいコンタクトと繊細なスキルで、非日常的なプレーを行うのがラグビーの特徴であり魅力です。

◆ 大学弱小部から強豪・東芝へ

私がラグビーを始めたのは、福島にキャンパスがある日本大学工学部のラグビー部で、東京の日大ラグビー部とは異なり、部員も少なく無名の弱小チームです。

入学式後、野球部に向かっていたところをいきなり屈強な先輩たちに抱えられ、連れていかれたのがラグビー部でした。毎日続く熱烈な勧誘に仕方なく練習を見に行くと、きつく汚く危険なラグビーを真剣に楽しむ姿に、仲間に入り



たいと思わせる熱を感じました。

上下関係もなく、本気で勝つ方法を考え、意見を出し合う。どんなに辛くても仲間のためにグラウンドに立ち、チームのために体を張る。ラグビーの根底に必要なタフさを教わり、身につけました。弱小ラグビー部だったからこそ今の自分があると信じています。

当時、身長だけは高いということで福島県選抜から誘いがあり、そこではがむしゃらについていく姿を見たコーチが東芝ラグビー部に私を紹介してくれたのが、強豪・東芝入りしたきっかけです。大学4年の春に参加した東芝の練習は想像を超える厳しさと、途中で肩を亜脱臼しましたが、最後まで練習に参加し続けました。その根性が認められました。

目の前の一回一回の練習を真剣にがむしゃらに取り組んできたからこそ、社会人の強豪チームでプレーするというチャンスをつかむことができたんだと思います。

東芝での1年目は自分がチームで通用するのかもしれない不安を払拭するために練習を積み重ね、2年目に公式戦デビュー、さらなる成長を期待され、翌年春にはニュージーランドにラグビー留学させていただきました。

その年の秋にトップリーグが開幕し、東芝は1年目から優勝争いを繰り広げました。シーズン終盤、痛い敗戦の後のミーティングで、激しいプレーで仲間が痛めつけられているのにやり返さない気持ちの弱さを指摘されました。仲間

がやられたらチーム全員で仲間を守っていたニュージーランドのスタイルを思い出し、気持ちで負けたら試合にも負けると実感したのです。

それからは骨惜しみせず、感情をあらわにして相手に立ち向かい、チームのために体を張ることを常に意識してプレーしました。そして、2004年、日本代表に選出され、国を代表して世界と戦う舞台に立つことができました。

◆ 次は勝利を ～W杯フランス大会

初めて出場したW杯は2007年のフランス大会で、ジョン・カーワンが日本代表を率いました。多くの外国人選手が招集される中、彼はチームスローガンに「武士道」を掲げ、日本が培ってきた武士道の本質を持って戦うことを強化の根幹にしたのです。

日本代表の試合は、第1戦と第2戦の間が中3日と非常にタイトなもので、苦肉の策として、1・2戦のメンバーを別にし、勝てる可能性の高い第2戦に主力を出場させることにしました。結果として、オーストラリア戦は91失点の大敗。そして、私のW杯初試合となったフィジー戦は、日本代表が奮闘し、最後はスタジアム中のジャポンコールが我々を後押ししてくれましたが、31対35で敗戦しました。

第3戦のウェールズにも破れ、最終戦は共に予選敗退が決定しているカナダとの一戦になりました。ラストワンプレーの時点で日本が7点差で負けていましたが、そこで追いつき、12対12の同点で終えることができました。

W杯に出場して、非日常的な雰囲気や独特の緊張感、何よりこの舞台で勝利したいという欲が生まれ、次の大会出場という新たな目標ができました。

◆ 準備の大切さと悔しさ

～W杯ニュージーランド大会

着実にチームのレベルも上がり、自信を持っ

て迎えた2011年のW杯でしたが、第1戦のフランスには残り10分で引き離され、21対47で敗戦。第2戦が開催国で世界ランキング1位のニュージーランドで、結果は7対83の大敗でした。日本は1995年のW杯で同国と対戦し、145点という最多失点で惨敗した歴史があります。相手を過大評価し、必要以上に緊張して臨んだ結果、あり得ないミスを連発して簡単にトライを取られ、点差が広がる焦りでまたミスをする悪循環に陥ってしまったのです。

強豪と2年に一度でも対戦し、相手のプレッシャーを体感して事前に準備ができていたら大敗にはならなかったと、準備の大切さを実感しました。

第3戦は過去5年間負けなしのトンガでしたが、必勝のプレッシャーからミスを連発してチャンスを潰し、相手の気迫にも押され、18対31で敗戦しました。

予選敗退が決まった日本代表の最終戦は再びカナダでした。日本が8点リードするも、残り10分でカナダに追いつかれ、23対23の同点。今度は日本代表が勝利を逃しました。

4年前と同じ結果に悔しさしか感じず、その年の3月に発生した東日本大震災で被害に遭われた方たちに、勇気や元気を届けたいというチームの思いもかないませんでした。

◆ 大義をなす覚悟

2012年、新ヘッドコーチにエディー・ジョー



KOUENROKU

ンズが就きました。34歳という年齢もあり、再びW杯の舞台に立てるのか自信はありませんでしたが、エディーの「2015年のW杯では大野はプレーしていないだろう」という言葉に奮起し、今まで以上に一日一日を大事にしようという思いで、ハードワークの日々をスタートしました。

日本代表はいろいろなチームからの寄せ集めです。そんなチームが一つとなり、W杯を戦うには、大義がありました。子どもたちが憧れるチーム、みんなが応援したくなるチームになるよう、グラウンドの内外で日本代表として常に誇りを持って行動する。自分たちの存在意義をさらに高みに持っていくことで、日本でのラグビーの在り方をより良いものに変える。そのためには勝たねばならない。我々はその大義をなす覚悟を決め、猛練習に取り組みました。

緻密な管理を行うエディーの下、世界一と言われた練習量をこなし、時には理不尽を感じるほどのトレーニングを積み重ねました。スクラムが日本代表の武器になると考えたのも、エディーが初めてです。これまで体格で劣る日本はスクラムでは世界に対抗できないと考えられてきましたが、フランスからスペシャリストを招き、本気でスクラム強化に着手したのです。

南アフリカ戦の最後、キャプテンのリーチ・マイケルが同点ではなくスクラムを選択したのは、4年間信じて積み重ね強化したスクラムで、南アフリカからでも勝ちを狙えるという我々の気持ちを世界に示してくれたものでした。

◆ 「世紀の番狂わせ」

～W杯イングランド大会

ラグビーは番狂わせが最も起こりにくいスポーツと言われていますが、2015年のW杯イングランド大会で、日本代表は優勝候補の南アフリカを破り、サモア、アメリカにも勝利して、過去大会1勝のチームが3勝を挙げることができました。



37歳となった私が必死の思いで日本代表の切符をつかみ、国際試合95試合目として出場した南アフリカ戦が、自分の選手キャリアにおいて最も輝かしい結果となり、日本のみならず世界中の人を感動させた「世紀の番狂わせ」になるとは想像もしませんでした。

試合後にいただいた多くの祝福と労いの中に、「145点の記憶を変えてくれて、ありがとう」と、元日本代表の伊藤剛臣さんからのメッセージがありました。それを見たとき、本当の意味で日本ラグビーの歴史をつくることができたのだと胸を熱くしました。

また、福島原発の収束作業に従事する人たちが早朝この試合を見て、元気をもらって作業に向かったという話も聞き、4年越しではありますが、少しは思いを届けられたのかなと胸をなで下ろしました。

2019年に日本で開催されるW杯の成功に向けて、いい結果を残さなければという危機感をメンバー全員が胸に秘めていたからこそ、苛酷なハードワークを乗り越え、世界に大きなインパクトを与えることができたのだと思います。

もちろんチームスタッフの大きなサポートがあったことは言うまでもありません。選手だけでなく、スタッフを含めたチーム全員がワンチームとなり、勝ち取った3勝でした。

◆ 感謝は成長の根本

モチベーションを保ちながら世界と戦い続けることができる選手には覚悟があります。練習

でしっかりと準備をし、グラウンドに立てば、自分に求められるプレーを激しく正確に行う。

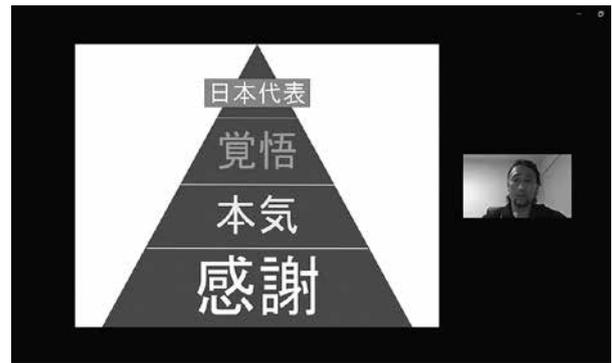
私の考えるチームワークとは、仲間のミスをかばうことではなく、チームのために自分がすべき仕事、役割を完璧にやり抜くことです。それができるメンバーが集まったときに、本当のチームワークは発揮されると思います。

そして、覚悟を持つには本気で取り組むことが必要です。本気になると妥協がなくなります。自分のためであれば限界で満足するかもしれませんが、誰かのためであればもっと上を目指そうという気持ちになれる。その誰かとは日頃から自分が感謝している人たち。切磋琢磨してきたチームメイトやプレー環境を整えてくれるスポンサー、サポートしてくれるスタッフ、応援してくれるお客さんや家族。この感謝の気持ちで、自分を成長させる根本にあるものだと思っています。

ラグビー素人の自分を温かくチームに入れてくれた弱小ラグビー部に感謝し、周りの支えで社会人の強豪でプレーする機会をもらえたことで、本気になり、覚悟を持ってラグビーに取り組んできたからこそ、私は長く日本代表としてプレーできたのだと思います。

また、覚悟を持って取り組む人には魅力があります。それが2019年W杯日本大会を戦った日本代表です。世界のラグビーを統括するワールドラグビーは、「品位、尊重、結束、規律、情熱」という5つのコアバリューから成る「ラグビー憲章」を定めています。日本代表チームはそれを見事に体現し、ベスト8進出という快挙を成し遂げました。全員が桜のジャージに誇りを持ち、一人一人が己を犠牲にしてボールをつなぎ勝利に向かう姿。世界中から集まった品位ある選手たちがお互いを尊重し合い、チームとして結束して規律を守りながら情熱的に戦うラグビーは、日本人の心を強くつかみました。

2023年にフランスで開催されるW杯では、さ



らなる高みを目指し、日本がラグビーの強豪国として世界中に認められるよう、私も微力ながら尽力していきたいと思います。

◆ 東京オリ・パラの見どころ

東京オリンピックでは、7人制ラグビーがあります。試合時間は前・後半7分の計14分と短いですが、フィールドは15人制と同じ広さなので、とてもスピーディーで見応えのあるプレーの連続となります。

パラリンピックでも車いすラグビーがあります。バスケットボールのコートと同じ広さのフィールドで、4対4で戦います。激しいぶつかり合いが見どころの一つで、体験すると健常者でも怖くなる衝撃があり、選手の精神的強さに感動しました。

皆さんには、これからの日本ラグビーにぜひ注目していただき、困難に立ち向かう勇気を感じ、共感していただけたらと思います。

ご清聴ありがとうございました。



被災地復興への決意あらたに

— 全国経済同友会東日本大震災10周年追悼シンポジウム —

7月4日(日)、全国44経済同友会は「全国経済同友会 東日本大震災10周年追悼シンポジウム」を宮城県仙台市で開催した。

東日本大震災の発生から今日までの10年余を振り返り、犠牲になられた方々を追悼するとともに、被災地の復興への決意をあらたにした。当初、震災の節目となる3月の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、7月に開催を延期した。

シンポジウムには会場とオンライン合わせて全国から約220名が参加した。当会からは、**麦野英順代表幹事**、**有藤直樹事務局**長が会場に参加した。



麦野代表幹事

(公社) 経済同友会の**櫻田謙悟代表幹事**が開会挨拶をしたのち、追悼式典が行われた。

犠牲になられた方々に黙祷を捧げた後、(公社) 経済同友会の**長谷川閑史**終身幹事が挨拶、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトで岩手、宮城、福島3県の実業系高校に実習機材を贈るなど、20億円を超える支援をしたことを紹介しつつ、「復興を担うのは人。特に若者が活躍する舞台を整えるのが同友会の役割だった」と話した。続いて、震災翌年から7年間、宮城県教育長を務めた**仙台大学の高橋仁**学長が「支援は、実習機材がなく途方に暮れていた生徒の励みになった」と感謝の言葉を述べた。そして、「被災地の今とIPPO IPPO NIPPON プロジェクト」の上映が行われ、その後、中部経済同友会の**滝茂夫**特別幹事が挨拶し、追悼式典は終了した。

次に、**岡本全勝氏**(元内閣官房参与・元復興庁事務次官)が「東日本大震災復興における経済界の貢献」と題して基調講演を行い、震災発生直後から復旧期、さらに現在までの10年間の政府・自治体・企業の取り組みを総括し、これからの災害対応のあり方と官民の役割について話した。



基調講演 岡本全勝氏

基調講演後、3つのパネルディスカッションが開催された。



パネルディスカッション

第1セッションは「これからの東北・被災地の活力創出」と題し、自己革新による活力創出を、東北・被災地の企業経営・経済活動へと組み込んでいくための方策を検討し、人口減や過疎化に苦慮する各地に道筋を示した。(モデレータ：木村恵司氏((公社) 経済同友会防災・震災復興委員会前委員長)、パネリスト：大山健太郎氏((一社) 仙台経済同友会終身幹事)、甘竹秀企氏(アマタケ取締役社長)、植田拓郎氏(東北大学理事(産学連携担当))

第2セッションは「福島再生への展望」と題して、福島第一原発の廃炉作業の進捗を確認するとともに、福島再生への鍵を担う産業集積と人材育成の取り組み・好循環の創出に向けた課題を議論した。(モデレータ：末宗徹郎氏(福島復興再生総局事務局長)、パネリスト：阿部隆彦氏(福島経済同友会代表幹事)、高原一嘉氏(東京電力ホールディングス福島復興本社代表)、伊藤泰夫氏(福島イノベーション・コースト構想推進機構専務理事))

第3セッションは「3.11の教訓と災害対応の課題」と題し、東日本大震災を振り返って災害対応の課題と緊急支援の限界を整理したうえで、企業は災害にいかにかに備え、社会・経済活動の継続にいかにかに貢献すべきかを考えた。(モデレータ：徳植桂治氏((公社) 経済同友会防災・震災復興委員会前委員長)、高橋真裕氏((一社) 岩手経済同友会代表幹事)、山内雅喜氏(ヤマトホールディングス取締役会長)、永松伸吾氏(関西大学社会安全学部教授))

最後に(一社) 関西経済同友会の**古市健**代表幹事が閉会挨拶を行い、シンポジウムは終了した。

さらなる地域活性化を目指して

～ 第1回地域創生委員会 ～

第1回地域創生委員会（吉田守一委員長）が7月6日(火)、富山電気ビルディングで開催され委員83名が出席した。

冒頭、吉田委員長、副委員長、アドバイザー、オブザーバー参加の(株)日本政策投資銀行富山事務所長の山本覚氏より挨拶があった。

吉田委員長は挨拶の中で

「今次委員会でも積極的な活動を考えていた矢先、人事異動となった。後任は山本氏が務めるが、自身は2022.4までアドバイザーとして参画させていただけるとのことなので微力ながら活動を支えていきたい。積極的なご意見で皆様の手で盛り上げていただきたい」と語った。

次に、吉田委員長より今次活動方針について説明があった。「今次委員会では、①提言の実践、②自由闊達な対話による方策の提言と効果的発信、③先進他地域の視察による研鑽の蓄積、を



吉田委員長

方針として設定し、①創造性とイノベーションの発揮、②地域の持続的成長、③社会的課題への対応、をテーマとして設定した」と述べた。続いて、各テーマにおける活動計画について担当副委員長より説明があり、意見交換に移った。

委員からは「スタートアップに関し、60周年記念講演での質問に対し講師（安宅和人氏）は“スタートアップするならむしろ海外へ出て、それを富山へ及ぼすくらいのスケールで考えてはどうか”と答えられた。この観点も忘れずに支援できれば」や「地域医療体制のあり方について、行政的立場からの検討も重要だが民間病院の観点や意見も取り入れてはどうか」など、活動の充実に向けた建設的な意見が出された。



次世代の人財育成に向けた教育

～ 第1回教育問題委員会 ～

第1回教育問題委員会（高瀬幸忠委員長）が7月8日(木)、ホテルグランテラス富山で開催され委員25名が出席した。

まず、高瀬委員長より「委員数40名を超える委員会となった。活動に積極的に参加してもらえるよう、グループに分割しテーマを設定して活動いただく形式とした。皆さんと協力して活動を盛り上げていきたい」と挨拶があった。

次に、高瀬委員長より今次活動方針・活動計画について説明があった。委員長は「今次は①提言の実践、②学び方改革の推進、③大学との滑らかな連携、を活動方針とし、これに基づきグループごとに活動テーマを設定した。各グループ担当副委員長を中心に、他の委員会とも連



高瀬委員長

携し活動を進めたい」と述べた。続いて、各グループの活動計画について担当副委員長より説明があり、グループごとに意見交換を行った。

意見交換では「企業が公教育に関わることの意義をしっかりと考えていきたい」「インプットも大事だが、アウトプットも大事。教え合う教育というものを模索したい」など活発な意見交換や活動計画に対する提案が行われ、活気ある委員会となった。



高度人材の確保育成・活力向上を

～ 第1回人財活躍委員会 ～

7月20日(火)、第1回人財活躍委員会(中澤宏委員長)を富山電気ビルディングで開催し、36名の委員が出席した。中澤委員長からの挨拶の後、副委員長およびアドバイザーの紹介がなされた。

続いて、各担当副委員長より今年度の活動計画案が説明され、地方創生テレワークの実証試験や、UIJターン促進事業、起業支援イベントの実施、外国人留学生の就労支援に関する調査・研究等に取り組むことが示された。また、新たな活動として、女性活躍・キャリア形成に向け取り組んでいくことも説明された。



中澤委員長



大平講師

次に、(株)サーキュレーション プロシエリング本部 北信越支社長の大平瑞木氏を講師に招き講演会を開催した。大平氏は「地方企業の副業兼業人材活用事例とプロシエリングについて」と題しレクチャーを行い、プロの人材が持つ経験知見を必要な時に、必要な分だけ活用するプロシエリングという仕組みについて解説した。

その後、県内企業における活用事例として、プロシエリングによって、新規事業の立ち上げを達成した例を紹介し、プロの人材を活用することの効果、必要性を示した。

また、活発な質疑、意見交換もなされ、参加した各委員にとって知見を深める貴重な機会となった。



SDGs 推進など意見交換

— 第2回企画総務委員会 —

8月5日(木)、第2回企画委員会(桶屋泰三委員長)が事務局会議室にて開催され、委員5名が出席した。冒頭、桶屋委員長が挨拶を行い、議事に入った。今回は①SDGsの活動に対する報告の方法、②SDGs未来都市との連携、③今年度の新会員歓迎オリエンテーション、④事務局のデジタル化の4項目について議論した。

SDGsの活動に対する報告については、会報やホームページでの掲載方法について意見交換を行った。SDGs未来都市との連携では富山県の推進している企業に対するSDGs宣言募集や富山市・南砺市のサポーター登



桶屋委員長

録拡大のために協力できないか話し合った。新会員歓迎オリエンテーション(11月9日開催予定)ではイベント運営の当日の流れについて情報共有を図った。

最後に事務局のデジタル化について意見交換を行った。現在、FAX中心に会員向けにイベントの案内をしているが、出欠の集計機能があるGoogleフォームの導入について検討していくこととした。4項目ともに、非常に活発な意見交換が行われた。



神秘の立山信仰の世界を学ぶ

— 第1回文化スポーツ委員会 —

第1回文化スポーツ委員会(島田好美委員長)が7月30日(金)、立山国際ホテル及び立山博物館で開催され、委員31名が出席した。

はじめに、島田委員長が「これから2年間、皆さんとともに富山に関わる文化やスポーツについての知見を深めていきたい」と挨拶した後、立山ガイドの佐伯知彦氏を講師に招き、「癒しの立山曼荼羅の世界」と題して講演会を開催した。



島田委員長

佐伯氏は、かつての立山信仰登拝の案内人「仲語」のいでたちで登場。はじめに、立山信仰の源である立山の自然を紹介した後、立山信仰の歴史を解説。立山は「日本三霊峰」の一つであり、古来より信仰の山として崇められてきた。江戸時代には独自の信仰の世界を開き、立山登拝の拠点である「宿坊」が「立山曼荼羅」の絵解きを通して布教活動を行った。その際、御札や立山の地図とともに霊薬も頒布していたが、お代はその場ではもらわない「先用後利」で、富山の薬売りに通じるやり方によって、立山信仰を全国に広めていったことを説明した。



佐伯講師

次に、立山曼荼羅には、佐伯有頼による「立山開山縁起」、地獄谷を中心に劔岳やみくりが池などを地獄に見立てた「立山地獄」、三山を極楽浄土に見立てた「立山浄土」、女人救済の



嬭堂基壇にて

秘儀「布橋大灌頂会」、六根清浄を唱える「立山禪定」の5つの物語が描かれていると説明。立山信仰の背景には、山中に地獄と浄土が併存する「山中他界観」があり、立山を登拝し死後の世界を巡ることで、今までの罪や穢れは浄化され、生まれ変わることができるとした。

最後に、立山曼荼羅は昔、自分の心が映し出される「絵鏡」と言われていたことを紹介し、「自分の心を八正道に当てはめて、正しく導いていくのが立山信仰である」と述べ講演を締めくくった。

講演会に引き続き、島田委員長から今年度の活動方針及び活動計画を説明。

その後、立山博物館に移動し、まず、学芸員の案内で常設展と特別企画展を鑑賞。立山信仰の舞台となった立山の自然や歴史、曼荼羅の精神世界、立山信仰用具、立山登拝者や宿坊の様子など、立山信仰の特徴と魅力について解説いただいた。



立山博物館 展示館にて

続いて、講師の佐伯氏に解説いただきながら、雄山神社芦峯中宮祈願殿、教算坊、閻魔堂、布橋、まんだら遊苑などを巡った。



雄山神社芦峯中宮にて

まんだら遊苑では、地界～陽の道～天界～閻の道へと、立山曼荼羅の世界を「見・聴・香・触・空」の五感で感じながら、



まんだら遊苑 須弥山にて

立山の地獄から極楽浄土、現世への再生まで、立山信仰の壮大な世界を体験した。

世界経済情勢・富山県経済を解説 — 第3回 —

第3回企業経営委員会（伊勢徹委員長）が8月4日(水)、富山県民会館で開催され、Zoom参加者を含め56名の委員が出席した。

冒頭、伊勢委員長が「新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、委員会活動にも制約が出ているが、最善の対策をとって活動していきたい」と挨拶した後、2021年度の活動方針及び活動計画を説明し、委員と共有した。



伊勢委員長

続いて、日本銀行富山事務所長の小川万里絵氏が、「最近の金融経済情勢について」と題して講演を行った。

小川氏は、世界経済の新型コロナウイルスの影響と回復状況を説明した後、日本経済への影響として、輸出の回復やサプライチェーンの再構築などの海外要因、対面型サービスの低迷、雇用形態による格差、設備投資の回復基調などの国内要因

について説明。日本経済の展望は「新型コロナの影響が収束していけば、さらに成長を続ける」と予想されており、「企業や家計の中長期的な成長期待が大きく低下しない」ことが必要とした。富山県経済は「個人消費の一部に下押し圧力が続いているが、総じてみると持ち直している」と紹介。最後に、北陸新幹線の開業効果と県内新幹線駅の状況を説明したうえで、「観光PRが抽象的、首都圏での存在感が小さい」「細かなサービスと気配りが必要」など、富山県の観光政策の課題や改善点についても熱く語った。



小川講師

膨大な統計データやグラフを分析し、歯に衣着せぬ鋭い指摘と分かりやすい解説に、参加した委員からは活発な質疑がなされ、会は盛況のうちに終了した。

サステナビリティを経営に実装 第4回拡大委員会「SDGs講演会」

第4回企業経営委員会拡大委員会が8月20日(金)、完全オンラインで開催され、SDGパートナーズ有限会社 代表取締役 CEO 田瀬和夫氏が「SDGsで変わるビジネス」と題して講演を行い、会員87名がZoom視聴した。

田瀬氏はまず、SDGsの本質を理解するには、17の目標・169



田瀬講師、伊勢委員長

のターゲットだけを見るのではなく、全体のストーリーを知ることが必要であるとし、SDGsが目指すのは「世代を超えて、すべての人が、自分らしく、よく生きられる」世界であり、これを実現するためには、自分の社会的存在意義を明確にすることが重要であると強調した。

企業がSDGsに取り組む意義には、「利益と

社会的善を両立する」という大義と、「新市場の源泉」「顧客の要請」「優秀な人財獲得」という小義があり、SDGsを経営に実装するには、経営理念とSDGsの関連付けを明確にしたうえで、経営理念・CSV・ESGを一体のものとして考える「統合思考」が必要であるとした。

そして、17目標の「紐付け」で思考停止する企業が多いが、それを事業戦略に落とし込み、SDGsを真に実現するため、「逆算思考」と「リネージュ思考」を提案。さらに、サステナビリティを利益につなげる5つのアプローチを紹介した。

最後に、地域企業のSDGs経営と他産業や金融機関、自治体との連携協働により、社会的インパクトの連鎖反応が期待できるとしたうえで、「次の世代にどんな社会を残せるか、SDGs経営の取り組みは他人事ではない。2030年まではあと9年しかない。一緒に頑張っていきましょう」と講演を締めくくった。

「よりよく生きる」とは 牧田副代表幹事が小・中・県立学校 3 年次校長研修会で講演



牧田副代表幹事

令和 3 年 7 月 29 日(木)、牧田和樹副代表幹事が小・中・県立学校 3 年次校長研修会（富山県教育委員会主催）にて、受講者 38 名を対象に「よりよく生きる」と題して講演を行った。

牧田副代表幹事ははじめに、各界の著名人と親しくなった際のエピソードを紹介。人と仲良くなるためには相手と話せることが必要であるとし「コミュニケーションを成立させる、すなわち価値観を共有させることが重要。ぜひ身につけてほしい」と説いた。続けて、価値観を共有させるためには多くの“引き出し”を持つこととし「引き出しを増やすには情報を自身に input する必要がある。本やネット、セミナーなどの手法は情報が一方向である。一方、人との会話による“双方向で仕入れる情報”はとても重要」と強調した。

次に「あなたのスマホの、教育関係者以外の方の登録者割合はどれだけか」と問いかけ「教育関係者の割合が高いと偏った情報しか入らない。教育関係者以外の方をどれだけ持てるかが重要」と訴えた。また、引退後の第 2 の人生について、

教育関係者とのつながりだけでは学校でやってきたことしかできないとし

「学校では年齢や地位など相手に対する優位性が常にあったが社会ではそれはない。第 2 の人生を充実させるための価値観の拡大には、“人のストック”のみが効果を発揮する。臆せずいろんな人と話そう」と語りかけた。

最後に、コミュニケーション能力向上は組織トップとしてのマネジメントにも必要であるとし「マネジメントの要点は“方針どおり（≡自分の思うとおり）に人を動かせるか”である。この時、人を“説得”するのではなく“納得”させることが重要。高いコミュニケーション力で、相手を認めた上で行動してもらい得られる成果を大きくすること、これが第 2 の人生を含めて“よりよく生きる”ことにつながる」とアドバイスを送り、講演を締めくくった。

受講された校長先生からの感想（抜粋：富山県教育委員会より受領）

- ・教育関係者以外の人脈をつくる必要性を強く感じました。人間としての幅を広げる必要性は常々感じていましたが、二の足を踏んでしまう自分を改めて見直すことができました。「人は変えられない」「人は常に承認欲求をもっている」を肝に銘じ、日々、部下に寄り添っていく姿勢を貫きたいと改めて思いました。
- ・私たちが人として生きる上で大切なことをたくさん学ぶことができました。また、リーダーシップを身に付けるために必要なことを明確に理由付け、位置付けて伝えていただき、本当に自分の宝になったように思います。
- ・ちょうど、人間関係づくりや校長としての資質について悩むことが多く、自己を見つめ直す必要感到迫られることが続いていたことから、今回の講話や資料の格言から学ぶことが多くありました。教員にとって働きがいのある学校、子どもたちにとって学びがいのある学校、地域から信頼される学校づくりの基本となる大切なことを改めて考える機会となりました。

働くこと、社会に出ること、より幸せに生きること

— 課外授業講師派遣 —

第4回 高岡市立牧野中学校

令和3年7月7日(水)、牧田和樹氏(㈱牧田組取締役社長)が高岡市立牧野中学校において、2学年86名を前に10月実施予定の「社会に学ぶ14歳の挑戦」に向けた講演会として「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長はまず、今から働き始める年代(概ね20歳あたり)までの数年間は、働き始めるまでの準備期間であるとし「準備として求められる、知識や体力、経験等を、学校での勉強や部活動などを通じて積み重ねてほしい」と語りかけた。

次に、働くことと社会の仕組みについて「社員は労働力を提供し商品やサービスを作り出す。お店(会社)は社員により作られた商品・サービスをお客へ提供する。一方、お客はお店(会社)へ代金を支払い、お店はこの中から社員へ給料を支払う。この一連の流れが社会の構造である」とし「流れの出発点は“労働力”であることが重要である」と訴えた。続けて「働くこ

とを考える際、①労働力の提供により社会へ貢献すること、②提供する労働力はお客さんの役に立たなければ意味がないこと、を意識してほしい」と説いた。

最後に、今は将来従事する職業などわからないが、どんな仕事に就いても大丈夫とするために学校での勉強があるとし「職業選択の幅や役に立てるフィールドを広げるためにも、学校でしっかりと学ぶことが大切。10月予定の「社会に学ぶ14歳の挑戦」を含めて、勉強や部活などいろんな経験を積み、立派に働ける大人になれるよう期待している」とエールを送り、講義を締めくくった。



「勉強や部活など学校で今やっていることに無駄はない」と牧田社長

第6回 富山県立富山商業高等学校

令和3年7月15日(木)、尾城敬郎氏(三菱商事㈱北陸支店長)が富山県立富山商業高等学校(東瀬義人校長)にて、3学年275名を対象に「社会に踏み出す為」と題して講演を行った。

尾城支店長はまず、社会の“波”を目一杯被った人ほど強くなるとし“社会に出るとは”について3つのキーワードを示し語りかけた。

(1)責任の傘を自分で差すこと 社会人になると自分で傘を差すこと、その傘で自分や友人を守る事が求められる。

(2)自分で坂道を歩くこと 人生には上り坂、下り坂、まさか、の3つの“坂”がある。まさかの時に滑らかに対応できるかが重要である。

(3)仲間を増やすこと 自分のためでも、周りのためでもある。卒業証書自体はいつか色褪せるが、友達や友情という証書は色褪せない。

次に、社会の“新3K”は期待して・機会を与え・鍛えること、実施には仲間が必要とし、求

められる仲間の像として①共感できる人、②時代やTPOに合っている人、③この人のためについてくれる人を作れる人、④道しるべを伝えられる人、であると説いた。

最後に、マイケル・ジョーダンの言葉“挑戦しないなんてありえない”を紹介し、トライアスロン(Triathlon)は“Try! 明日論”と読めること、Impossible(不可能)という単語に「I」を付加するとI'm possible(できる)となることを示し「社会に出てからはネガティブをポジティブに見方を変えることも必要。社会の為、困っている人の為に何が出来るかを意識してほしい」とエールを送った。



「明日の自分は自らがつくる。明日に向かって歩いてほしい」と尾城支店長

第7回 片山学園高等学校

令和3年7月16日(金)、伊東潤一郎氏(アイティオ㈱取締役社長)が片山学園高等学校において、1学年国際科学探求コース8名を前に「働く事と幸せに生きる事」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長はまず、いつかは進路など人生(進む方向)を決める必要があるとし「夢を持つこと、それがかなうよう努力することは大事。ただ、夢は不変ではない。どの道にも進めるよう準備することが勉強すること」と説いた。続けて、勉強することの意義として「人生の中で選択肢を多く持つことは重要。勉強しなければ選択肢は減っていく」「道は遠いところまで見えたほうがよい。遠くまで見るための“高さ”は好奇心により培われる」と訴えた。

次に、これからの人生の中で大切な3つのことについて語りかけた。

(1)“成功”の反対は“失敗”ではなく“何もしな

いこと”。失敗には必ず意味があり、その先に成功がある

(2)人生には、与えられたものが還ってくるという目に見えない法則がある。自分が人に、世の中にしたことが後に、必ず自分に還ってくる

(3)与えられた課題は、先送りできるが逃げ切ることにはできない。与えられた課題には積極的に取り組むことが大切

最後に、これまでに様々な人から聞いた話の意味、いつ気付くかによって幸せになる速度が異なるとし「いろいろな人の話をよく聞きながら、より早く気付けるよう努力してほしい」とエールを送り、講義を締めくくった。



「正しい答えは1つではない。“納得解”をどう出すかも重要」と伊東社長

8人の先生派遣

— 課外授業「NEW STYLE version II」 —

< 牧田和樹氏（㈱牧田組取締役社長） >

牧田社長ははじめに、一般的には概ね20～22歳頃から働き始め、80代まで生きるとし「働く期間が人生の大半を占めることになる。中学生の今の時期に“働くとは”を真剣に考えることが大事である」と説いた。



次に「社員は働いて商品やサービスを作り出し、お店（会社）はその商品・サービスをお客へ提供する。一方、お客はお店へ代金を支払い、お店はこれの中から社員へ給料を支払う。この一連の流れが商売の仕組みである」とし「一連の流れでは、商品・サービスと代金、働くことと給料とが釣り合っていること、“働くこと”が出発点であることが重要」と強調した。続けて「社会を動かしているのは“働くこと”。経済活動は、働いて価値を提供するところから生まれる。価値とは人の役に立つこと、人の役に立つ価値を提供する働きをしなければいけない」と訴えた。

最後に、今やっている学校での勉強などは働くため、選択肢を広げるための準備であるとし「準備とは学校でやるべきことを日々、一生懸命やること。真剣に取り組めば、就ける職業の選択肢が広がることを意識してほしい」とアドバイスを送り、講義を締めくくった。

< 大橋聡司氏（大高建設㈱取締役社長） >

大橋社長はまず「よろしくお祈いします」「ありがとうございました」などの挨拶時に、頭を下げた後に改めて心の中で言うことを心掛けていることを披露し「コミュニケーション能力はとても重要。その基本となる挨拶はより大事」と訴えた。



次に、働く理由は人それぞれであり全て正解であること、異なる考え方を知る・理解することが大事であるとし「“はたらく”とは“端楽（周囲の人を楽にする、楽しませる）”である。働くことによって周りの人の役に立ち喜んでもらい、社会に貢献し、そのことを喜びとして人生を価値あるものにしていくことである」と説いた。

最後に、将来働くにあたり意識してほしいこととして①AI、ロボットにはできない仕事をするため、人間ならではの能力（コミュニケーション能力、忍耐力等）を磨くことが重要、②プラス思考であること、であるとし「世の中は失敗だらけである。失敗から学ぶことにより前向き・建設的な思考、感謝、協調性などを培うことが必要。たくさん失敗し、そこから学び成長していこう」とエールを送り、講義を締めくくった。

< 伊東潤一郎氏（アイティオ㈱取締役社長） >

伊東社長はまず、中学生では将来何になりたいかがまだよくわからない人が多いとした上で「なぜ勉強が必要か。どの職業に就くかわからないため、選択肢を広く持つためである」と訴えた。続けて、医師には、患者から病状などを聞き出すコミュニケーション能力が必要と聞いたとして「例えば国語の授業で聞く力や伝える力を学ぶことが、今やるべき勉強である」と強調した。



次に、自社製品は社会に便利さを提供しているとし「働くことの目的は人を幸せにすること。働くとは、社会や周囲の人を幸せにすることの積み重ね」と語りかけた。さらに、便利なものをつくるには不便さに気付くことが必要とし「目の前にことに興味を持ち気付けて初めて、自分の行動が決まる。色々なものに興味を持ち、気付く人になっしてほしい」と訴えた。

人生で重要なこととして①成功の反対は失敗ではなく何もしないこと、②人生には与えたものが返ってくるという目に見えない法則がある、③与えられた課題は先送りできるが逃げ切ることにはできない、を挙げ「この意味が理解できた時、人生がより豊かなものになると思う。1日でも早く気付けるよう努力してほしい」とアドバイスした。

< 島田好美氏（㈱島田商店代表取締役） >

島田代表ははじめに「なぜ働くのか、仕事ってどんなイメージか」と問いかけた。生徒から出た回答全てが正しいとし「良い面、悪い面を全て含んだものが仕事である」と強調した。続けて、中学生から高校生になると、なりたい職業は憧れからいくらか現実を見据えたものに変わることを示した上で「AIがさらに進化すると、今はあるが無くなる仕事、今は無いが新たな仕事必ず出てくる。状況が変化していくことを、働くことや職業選択を考える際に意識する必要がある」と訴えた。



次に、男女共同参画や働き方改革、多様性の認め合い、SDGsなど今後さらに重要となる事項を挙げ「SDGsが求めていることは、簡単に言えば“このままでいいのか、考え直すこと”である。今よりももう少し視野を広げてみるのが求められる」と説いた。

最後に、なりたい職業を見つけるには①アンテナを拡げること、②思い込み（先入観）に縛られない、③ステージ（自分が居られる場所）を広げることが重要であるとし「周りの大人たちは皆さんを見守っている。なりたい自分を見つけるためにたくさん迷って、悩んでほしい」とエールを送った。

令和3年7月8日(木)、富山市立城山中学校において2学年73名を対象に課外授業を行った。「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替としての実施であり、当会より講師8名を派遣し生徒はグループに分かれて講師2名分の講演を聴講した。

<久郷慎治氏 (株久郷一樹園代表取締役) >

久郷代表は自己紹介としてまず、元々は造園業に従事する気が無く、他の仕事に従事していたこと、周囲から跡継ぎといわれる中で少しずつ造園の勉強を始め、自ら学びたいと思



い大学へ進学した上で跡を継いだことなどを紹介。「それまでは働くことはアルバイト感覚だったが、お金を得るだけでなく、仕事を通じて人に喜んでもらった時、自分の中に人を喜ばせる力があることを知ったことで、働くことの喜びを感じた」と語った。

次に、働く上で大事にしていることとして「感謝すること」とし「お客さんがあってこそ仕事ができる。感謝の気持ちを仕事で表し、お客さんから感謝される“感謝のキャッチボール”が重要」と強調した。続けて、このためにはコミュニケーション能力の向上が必要とし「お客さんと直接、会話する中でよい仕事ができる。伝える・聞く・書く力を養うことが大事である」とアドバイスした。

最後に、働くことは生活のためだけでなく、働くことを通じてまわりに喜びを与えることが重要であり、そのような全ての仕事は尊いとし「社会の一員として働くことを通じて、まわりの人に喜びを与え、自身も喜びを感じられるようになってほしい」とメッセージを送った。

<高林幸裕氏 (北電産業株取締役社長) >

高林社長ははじめに“なぜ働くか”を考える際には働く動機やモチベーションをひとつでも多く持つことが重要であるとし「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。仕事に前向きに取り組むための動機やモチベーションをきっかけとして、働くことを考えることが重要。今後、日々の勉強や様々な人の話を聞く中で進路を考えていってほしい」と説いた。



次に、時代の流れによって就職人気企業ランキングは変化するが、職業に貴賤など無く、雑用という用はひとつもないとし「コロナ禍でかつてないほど社会環境が変化している。ダーウィンは“唯一生き残ることができるのは、変化できる者である”と言った。変化に対応できるよう柔軟に考えることが、これからさらに求められる」と訴えた。

最後に、社会生活では対人折衝能力や協調性、行動力など様々な能力が必要になるとし「社会人になると、教科書に書いてあることはそのまま出てこない。毎日の勉強や部活動の積み重ねを通じて“地頭”を鍛えることが大事であり、今やっていることは決して無駄ではない。“能力”とは“やる気”であることを意識し、充実した時間を送ってほしい」とエールを送り、講義を締めくくった。

<高瀬幸忠氏 (スカイインテック株取締役社長) >

高瀬社長ははじめに、自社の事業やSDGsの取り組みを紹介し①正直、誠実であること、②社会を超えること(社会の期待の上をいく)、③良き社会のメンバーであること、が理念であるとしました。また、挨拶を重視しているとし「挨拶の“挨”には“押す”、撻“には”押し返す“という意味がある。つまり、挨拶は人と人のコミュニケーションの基本である」と強調した。



次に「なぜ働く必要があるのか」と生徒に問いかけ、回答全てが正解であるとし「当社グループ元経営者の中尾哲雄氏は①生きること・働くことは自分の価値を世に問うこと、その姿勢を持ち続けることが大切、②この仕事は世の中に必要とされているかを自問自答しながら、仕事自体を成長させていく気構えが重要、③生きること、働くことを通じて豊かな人間になっていく努力を続けてほしい」と語った。当社は人の成長を特に大切にしている」と語った。

生徒から「一番苦しかったことは」との質問に、県外勤務時の担当業務で、納期直前にスタッフが数名欠け、これを補うため欠けた人数以上の人員でフォローしたことを挙げ「納期を守り顧客に迷惑をかけなかった。悪いことは避けたいものだが、時には向き合うことが必要である」とアドバイスし、講義を締めくくった。

<福崎秀樹氏 (株フクール代表取締役) >

福崎代表はまず、かつて開発された機械・システムを5,000万人が利用するまでに要した期間(電話75年、ラジオ38年、テレビ12年、インターネット4年、LINE399日)を提示し、科学技術は二乗的に進化・普及してきたとして「過去40年間で起きた変化のインパクトはこれから5年で起きるといわれる。科学技術をはじめ、これから生きていく社会はどんどん変化することを意識しなければならない」と強調した。



次に、今ある仕事の約半分はコンピュータ、AIで自動化できるとした上で、AIで代替可能な仕事と置き換わらない仕事の違いについて問いかけた。生徒からの回答は全て正しいとし「正解を当てるのではなく考えることが大事。技術や社会の進化に併せて自身も変化していく必要がある」と訴えた。

最後に“美味しいものを食べたい”と考えた場合、お金など何かを手に入れなければならないが“美味しくものを食べたい”と考えると、一生懸命仕事した後や友達と一緒に食事など誰でも容易にできるとし「“考え方”は重要。考え方は自分次第で変えられる。常に自己の最善を尽くすことが大切であり、この繰り返しを未来につくっていく」と熱く語りかけ、講義を締めくくった。

<生徒の感想 (抜粋：事後アンケートより) >

- ・前向きにチャレンジすることが大切だと分かりました
- ・コミュニケーションの大切さについて知ることができた
- ・働くということについてとても参考になった





蛙の子は蛙でした

佐藤 幸博

(株式会社柿里 取締役社長)

私は砺波駅前のおうどん屋の息子であります。駅前立地ということもあり、お昼時はとても忙しく出前と沢山の茶碗洗いの日々でした。低学年の私が出前をすれば遅い、こぼれていると言われ、すみませんと謝ることが日常です。運動会は応援に来て貰えず一番楽しいご飯時も近所の家族に入り子供心にも家業を恨み、コンプレックスと負けず嫌いの性格がその頃から出来たのかと思います。

60年代後半から自分で（選び組み立てる）定食屋に転換し繁盛店となり、知らない人はいくらいいました。その後、大体の家庭が車を所有し家族単位で楽しむライフスタイルに変わり、駅利用者が少しずつ減り始め、佐藤食堂も当然影響を受け、父母は駅前立地から国道8号線津幡町に移転し、ドライブインに業態を変え再出発をしました。決まったように日曜祭日は凄く忙しく、ここでも手伝わされ家業をまたまた恨んでいました。

そうするうちに金沢東-砺波間高速道路が開通し、翌年にはさっさと見切りをつけ砺波に戻り、広い駐車場を備えた喫茶店に業態転換して繁盛させていました。よくよく考えてみると父母は時代を読み時流に乗った飲食業をしていたと思います。しかし、その間家族旅行などはほとんど無く私と弟は普通の家庭にあこがれ、私は安定を望む職業へと決めていましたが、ある採用試験の失敗により食堂の息子らしく金沢（浅田グループ）で高級レストラン、料亭、旅館で働き始めました。私は各店舗の会計帳簿もしていましたので、ステーキハウス六角堂さんの収益性の高さが素晴らしく、いつかは砺波にステーキハウスをと思いを馳せロッキー青木氏（紅花オブ東京）の右腕と言われた方のお店でお世話になり、年季明け後に砺波で店を出すことに致しました。

その頃2,500円のステーキは高ったのでしょう。お客様が来ません。開店後3日に1日は売上0という日が5か月ほど続き、その年の12月に全てを懸けていましたが12月20日になっても

お客様は来られず閉店の覚悟をし始めていました。ところが12月24日若いカップルが次々と来店、25日も沢山のカップル、26日からはファミリーが翌年の10日過ぎまでいっぱいでした。しかし翌週からまた暇になりどうしようと悩んでいたある日、米原商事社長の米原扶佳氏が来店され「君のやっていることは自己満足だよ」と言われ返す言葉もありませんでした。しかし次の瞬間に「教えて下さい。育てて下さい」と言葉が素直に出たのを覚えています。「ランチ時に安く食べれんがかよ！」それをヒントにステーキ定食1,000円・Wステーキ定食1,600円を始め、国道に看板を立て告知し始めると徐々にお客様が増え始めました。国道の看板は違法なため撤去されてもされても夜こっそり市役所裏に撤収された看板を取りに行き、その足で看板を付け帰った事もありました。米原氏はお客様を連れて来られては、この若僧を応援してやってくださいとよく仰って下さいました。また、お客様の後ろには10人のお客様があると教えて頂いたことも覚えています。

その後35年、一生懸命柿里ブランドを育ててきましたが、令和2年1月より世界中がコロナ禍に犯され弊社も最大の窮地に追い込まれております。コロナ禍気付いた事があります。人生（経営）は次々に壁（問題）の連続であり壁にぶち当たってからが本当の仕事の始まり、壁の向こうには自分の描いたあるべき姿と景色があり、そこへ行くには決断・挑戦・勇気が必要。そして失敗は必ずあるけれど失敗の原因を追究するとknow-howに代わる。正面からはピンチ、裏側から見るとチャンスになるかもしれない。

「見方、考え方、気持ちの持ち方、知恵を絞り仲間と心を合わせ強い信念と勇気を持って挑戦」と立派な事を言いましたが実は自然に父、母から伝授されていた事に今更ながら気づかされました。また、新入社員に“育てて下さい”を使いなさいとこっそり言っています。

（次号は株富花 取締役会長の辻井益雄 様です。）

活動報告

7月1日～8月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
7月15日(木) 16:30～18:30 オークスカナル パークホテル富山	7月幹事会・会員定例会（オンライン講演） （文化スポーツ委員会主管） 講師：元ラグビー日本代表/ 東芝ブレイブルーパス普及担当 大野 均 氏 演題：「弱小チームからワールドカップで勝つまで」	約120名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
7月6日(火) 17:00～18:30 富山電気ビルディング	第1回地域創生委員会	今次活動方針について 2021年度活動計画（案）について	83名
7月8日(木) 11:30～13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第7回正副委員長会議	・今年度の活動スケジュールについて ・景気定点観測アンケート調査について	8名
7月8日(木) 17:00～18:30 ホテルグランテラス 富山	第1回教育問題委員会	今次活動計画について	25名
7月20日(火) 17:00～18:00 富山電気ビルディング	第1回人財活躍委員会	・2021年度活動方針・計画について ・講演会 講師：(株)サーキュレーション 北信越支社長 コンサルタント 大平 瑞木 氏 演題：「地方企業の副業兼業人材活用事例とプロシェアリングについて」	36名
7月21日(水) 16:00～18:30 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第4回正副委員長会議	・今年度の活動計画及びスケジュールについて ・第1回委員会の開催について	8名
7月30日(金) 10:15～16:30 立山国際ホテル、 立山博物館	第1回文化スポーツ 委員会	・講演会 講師：立山ガイド 佐伯 知彦 氏 演題：「癒しの立山曼荼羅の世界」 ・2021年度活動方針・活動計画について ・立山博物館視察	31名
8月4日(水) 16:00～17:45 富山県民会館	第3回企業経営委員会	・2021年度活動方針・活動計画について ・講演会 講師：日本銀行 富山事務所長 小川 万里絵 氏 演題：「最近の金融経済情勢について」	56名
8月5日(木) 14:00～15:30 事務局会議室	第2回企画総務委員会	・SDGs 推進について ・事務局のデジタル化について ・新会員歓迎オリエンテーションについて	5名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
8月12日(木) 16:30~17:30 事務局会議室	地域創生委員会 第4回正副委員長会議	・委員会活動計画について(確認) ・県外視察について	8名
8月20日(金) 17:00~18:30 オンライン開催	第4回企業経営委員会 (拡大委員会)	「SDGs 講演会」(オンライン講演) 講師:SDG パートナーズ有限公司 代表取締役 CEO 田瀬 和夫 氏 演題:「SDGs で変わるビジネス」	87名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
7月7日(水)	高岡市立牧野中学校	2学年86名	牧田 和樹 氏 「よりよく生きる」
7月8日(木)	富山市立城山中学校	2学年73名	牧田 和樹 氏、久郷 慎治 氏、 大橋 聡司 氏、高林 幸裕 氏、 伊東 潤一郎 氏、高瀬 幸忠 氏、 島田 好美 氏、福崎 秀樹 氏 (「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替として実施)
7月15日(木)	富山県立富山商業 高等学校	3学年275名	尾城 敬郎 氏 「社会に踏み出す為に」
7月16日(金)	片山学園高等学校	1学年 8名	伊東 潤一郎 氏 「働く事と幸せに生きる事」

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
7月4日(日)	全国経済同友会東日本大震災 10周年追悼シンポジウム	ウエスティンホテル 仙台	麦野代表幹事 有藤事務局長 オンライン参加者 2名
8月26日(木)	全国経済同友会事務局長会議	オンライン開催	有藤事務局長

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
7月5日(月)	第36回富山家庭裁判所委員会	富山地方・家庭 裁判所大会議室	有藤事務局長
7月7日(水)	富山県教育委員会との意見交換会	富山県民会館	県教委10名 当会7名
7月9日(金)	令和3年度第1回富山県私立学校審議会	富山県民会館	久郷常任幹事
7月29日(木)	小・中・県立学校3年次校長研修会(講師)	富山県民会館	牧田副代表幹事
8月5日(木)	第1回富山市総合計画審議会	富山市役所	麦野代表幹事
8月19日(木)	T-Messe2021 富山県ものづくり総合見本市 第2回運営委員会	オンライン開催	有藤事務局長
8月20日(金)	令和3年度中・高進路指導研修会(講師)	オンライン開催	尾山謙二郎氏

会員の入退会

(7月幹事会)

1. 最近思うこと
(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)
2. 生活信条(座右の銘等)
3. 趣味

入会



おおの やすもと
大野 泰 幹
ネットヨタ富山(株)
取締役
(紹介者：石倉 央氏)

1. 富山県、地域に貢献し共に発展し成長して
いきたいと考えています。
2. 着眼大局、着手小局、質実剛健
3. トレッキング、ドライブ、御朱印集め



きょうだ のり あき
京田 憲 明
(株)富山市民プラザ
代表取締役
(紹介者：塩井保彦氏)

1. 街を活性化し、賑やかに(=密に)しよう
としてきた当社に、コロナ禍は「N〇密」
という難題をぶつけてきました。「濃密」
か「N〇密」かハムレットのように悩んで
おります。
2. 無理をせずに我が道を進む。でも出来るこ
とは全力でやる。
3. 中学生の頃は挿し木、今は園芸+日本蜜蜂



なか がわ ゆう こ
中川 優 子
医療法人社団功連会
南富山中川病院 理事長
(紹介者：麦野英順氏)

1. 職種に関わらずコロナ禍の中、大変な年を
迎えております。医業も影響を受けている
職業ではありますが、コロナウイルスに負
けず、前に向かって進みたいと思ってお
ります。
2. 日々新
3. 映画鑑賞、下手なゴルフ



なり き たけし
成 伯 武
(株)ナリキ
取締役会長
(紹介者：麦野英順氏)

1. 社業について
代も変わり、新しい考え方に少しずつ社員
も慣れてきたかなあと！常に時代の変化に
合わせて行動したいと思う。
2. 思い立ったが吉日
3. ゴルフ



ひろ た だい すけ
廣 田 大 輔
十全化学(株)
取締役社長
(紹介者：浅野雅史氏)
館 直人氏)

1. コロナ禍、環境変動、多様性など多くの変数が意思決定の難易度を引き上げている。これまでのスタイルをアンラーニングする勇気も必要に感じている。
2. 率先垂範
3. 旅行、読書、マラソン、食べること



もり まさ し
森 雅 志
(株)富山市民プラザ
取締役会長
(紹介者：塩井保彦氏)

1. 巨大IT企業がネット空間を支配し、フェイクニュースが飛び交い、社会がおかしな方向に向かっていることを憂慮している。
2. 知行合一
3. 雑読 他多趣味

交 代



おお にし けん じ
大 西 賢 治
北陸電機製造(株)
取締役社長
(前：松本重夫氏)

1. 2050年カーボンニュートラルをビジネスチャンスと捉え、新規事業への挑戦と新製品開発に取り組むとともに、DXによる業務効率化・働き方改革を推進していきたい。
2. 向き不向きよりも前向きに
3. ゴルフ



お ざき こう じ
尾 崎 浩 二
(株)みずほ銀行
富山支店長
(前：貞松孝洋氏)

1. コロナ禍で大変厳しい状況が続いておりますが、富山経済の発展に少しでもお役に立てるよう、頑張っておりますので何卒宜しくお願い致します。
2. “明けない夜はない” “ケセラセラ”
3. ウォーキング、スポーツ観戦、食べ歩き



かわ の ひろ まさ
川 野 寛 正
(株)東芝
北陸支社長
(前：丹羽賢士氏)

1. 時代の変化に対応した新しいインフラサービスの形を提案し、地域の発展に貢献して参ります。皆様との交流を通じて富山の人情・特性を学びたいと思っています。
2. 心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる (by 松井秀喜)
3. 山歩きと少々のお酒



く め いち ろう
久 米 一 郎
関西電力(株)
理事北陸支社長
(前：藤井俊成氏)

1. 「水善利萬物」。カーボンニュートラルの時代を迎え、今まさに水の持つ力が改めて評価されています。水力発電、水素という面で地域経済の発展に貢献したいと考えています。
2. 「虚心坦懐」何事にも驕ることなく広い心と感謝の気持ちを持って取り組みたいです。
3. 旅行、音楽鑑賞、食べ呑み歩き



しば たかし
芝田 聡
富山県信用組合
理事長
(前：荒木 勝氏)

1. 地域密着型の金融機関として、組合員の皆様の夢や挑戦をしっかりとサポートし、確固たる信頼を得て選ばれる金融機関となるよう、全力を尽くしてまいります。
2. 常に「利他の心」を忘れない。ビジネスチャンスは「利他の循環」から生まれる。
3. カターレ富山の試合観戦、読書。



しんじょう かずひろ
新庄 一洋
富山地方鉄道(株)
専務取締役
(前：中田邦彦氏)

1. コロナ禍で会社の業績は大きな影響を受けていますが、これをいずれ訪れた転機と捉えてしっかり対応できれば、このピンチもチャンスに変わるものと思っています。
2. 誠実であることと感謝の気持ちを忘れないこと。
3. 旅行、ジム、サウナ



ちよう たか ひで
長 高 英
北陸電力(株)
常務執行役員営業本部長
(前：金井 豊氏)

1. カーボンニュートラルの動きが怒涛のように押し寄せています。大きな波に飲み込まれることがないように日々もがいています。
2. 疾風に勁草を知る
3. 録画したテレビドラマを週末にぼーっと見ること。



の ぎき こういちろう
野 崎 広一郎
(株)読売新聞東京本社
北陸支社長
(前：森田清司氏)

1. 真相の定かではないネット情報が溢れる今、地方にしっかりとした拠点を設け、そこから全国に情報を発信していくことの重要性は、ますます増していると考えます。
2. 永く言に命に配し、自ら多福を求む
3. パイプオルガン (演奏)、美術鑑賞



の ずみ たけ ひろ
野 住 武 弘
(株)アイザック・ユー
取締役社長
(前：千田由美子氏)

1. ウイズコロナ、アフターコロナ、脱炭素社会、今の時代は変化が速まっています。この変化のスピードに乗り遅れることなく、新しいことに挑戦し続けていきたい。
2. 変わらないために 変わり続ける
3. 音楽鑑賞、読書



は ば たか と
羽 馬 隆 人
YKK AP (株)
北陸支社長
(前：日高 亮氏)

1. 新型コロナ禍で働き方が変わり、在宅勤務を奨励しております。日々の改善で効率低下を抑制し「ES・CS」を心掛けております。貴会に微力ながら貢献できればと思います。
2. 一期一会
3. ゴルフ



ひだり とも しげ お
左 伴 繁 雄
(株)カタレ富山
取締役社長
(前：山田彰弘氏)

1. 弊社事業の生命線である「地域の方々との距離の遠さ」を痛感している。コロナ禍だからこそ、弊社事業を通じて、人々が感情豊かな時を味わう意義は強くなっている。
2. 食うに困らぬ財と利他で人々に誠を尽くし、感謝すら欲せず
3. 音楽鑑賞



ひら た じゅん いち
平 田 純 一
日本海ガス絆ホールディングス(株)
取締役副社長
(前：五十嵐博明氏)

1. コロナ禍で気付かされた弱点を次世代の経営者の人材育成と絡めて、経営改革をスピード感を持って推進していきたい。
2. 事情磨練：仕事の質が自分の人生を決める。家族の笑顔を守るために一生懸命に働く。
3. ガーデニング、ヨット



ほり ぐち たつ ひろ
堀 口 達 宏
朝日印刷(株)
相談役
(前：濱 尚氏)

1. デジタル化が進み何もかもスピードアップ化。その反面、相手を思う気持ち人情味が希薄になりがち。今後は其々の長所を生かし、バランス感覚を持った人間を目指していきたいです。
2. 一日の計は朝にあり 一年の計は元旦にあり
3. 旅行、ウォーキング



やま もと さとる
山 本 寛
(株)日本政策投資銀行
富山事務所長
(前：吉田守一氏)

1. 歴代所長が培ってきた、地元経済、社会との信頼関係を承継、発展させ、人財創出、官民連携、基幹産業活性化など、地方創生やSDGsに貢献してまいりたい。
2. 出稽古力士。自社にとどまらず、他社他業種などとの接点を大切に、常に刺激を受ける。
3. ゴルフ。スコアはこれからです。

所属企業変更

松 嶋 重 信
(株)レシーム 専務執行役員
→ (株)司ファシリティーズ 専務取締役

山 田 彰 弘
(株)カタレ富山 取締役社長
→ 北陸電力(株) 営業本部室 専門部長

退 会

金 岡 克 己 (株)インテック 特別参与
林 口 砂 里 (有)エピファニーワークス
代表取締役
藤 井 裕 久 (株)藤井産業 取締役会長
本 江 哲 (株)アルメックホンゴ
代表取締役

(令和3年7月15日現在 会員数422名)

■第23回 富山景気定点観測アンケート

約6割が今後の景気見通しを「緩やかに拡大する」と回答

企業経営委員会（伊勢徹委員長）は、本年7月に「第23回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2021年後半の景気見通しや各社の業績予想、新型コロナの影響、SDGsの取組状況について175社（回答率43.8%）から回答が寄せられた。

主 な 項 目

<p>◆現在の富山県の景気動向は？</p> <p>横ばい状態が続いている 51%</p> <p>緩やかに拡大している 33%</p> <p>緩やかに後退している 14%</p>	<p>◆2021年後半（7～12月）の景気見通しは？</p> <p>緩やかに拡大する 58%</p> <p>横ばい状態が続く 32%</p> <p>緩やかに後退する 8%</p>
<p>◆2021年度の設備投資（前年度比）は？</p> <p>増額 32%</p> <p>2020年度並み 44%</p> <p>減額 24%</p>	<p>◆現状の雇用人員は？</p> <p>不足している 41%</p> <p>適正である 47%</p> <p>過剰である 12%</p>
<p>◆新型コロナによる、今後の収益への影響は？</p> <p>ややマイナス 27%</p> <p>マイナス 19%</p> <p>影響は中立 25%</p> <p>ややプラス 18%</p>	<p>◆SDGsの認知度、対応状況は？</p> <p>既に対応を行っている 39%</p> <p>対応を検討している 31%</p> <p>内容は知っているが、特に対応は検討していない 27%</p>

今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
10月11日(月)	幹事会	10月幹事会	ホテルニューオータニ高岡
10月11日(月)	全会員	10月会員定例会 講師：(公社)経済同友会 副代表幹事・地方創生委員長 (株)リコー 代表取締役 社長 執行役員・CEO 山下 良則 氏	ホテルニューオータニ高岡
10月30日(土)	全会員	同友会の日（カタール富山戦）	富山県総合運動公園陸上競技場
11月9日(火)	新会員	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	ホテルグランテラス富山
11月21日(日)	あけぼの会 会員	第81回あけぼの会ゴルフ・コンペ	呉羽カントリークラブ
12月7日(火)	全会員	年末会員定例会・懇親会	ANAクラウンプラザホテル富山
1月14日(金)	幹事以上	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気ビルディング

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

〔表紙写真〕

課外授業の新しい形式(富山市立城山中学校)

今回の課外授業は「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替として実施したものであり、当会より講師8名を派遣し、生徒たちは8～10名程度のグループで講師2名分の講演を聴講した。

課外授業講師派遣制度の新しい形式として今後、学校現場での活用が期待される。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail:doyukai@po.hitwave.or.jp

http://www.doyukai.org/

わが青春の1枚



写真①



写真②



写真③



3つの劔岳

株式会社クレハロ 代表取締役

福田可也

山好きな父の影響もあって、私は高校へ進学してすぐ山岳部に入部、厳しいトレーニングを経て夏山合宿に参加しました。

目指すは、富山県民の誇り「劔岳」であります。それは北アルプスを代表する巨大な岩の殿堂であり、新田次郎の小説「劔岳、点の記」にもあるように、明治期までは登頂不可能とされていた名峰であります。

私はこの山に過去に数回登っていますが、初登山がこの高校1年の夏山合宿でありまして、当時標高は「3,003m」（写真①）と言われていました。

その後1年置いて高校3年の夏にまた同じコースで合宿を行いました。

ちょうどその頃に測量のし直しがあったようで、ニュースでは「2,998m」（写真②）と報じていたのを覚えています。折しもわが山岳部が劔沢での合宿中のことで、テントの中でそのニュースを聞いたものでした。

その時一緒に聞いていた顧問の先生がこう言いました。「わしの登った3千メートル級の山

が一つ減ってしまったわい。」…それを聞いた私は「そんなもん劔が低くなったわけでもあるまいし、了見の狭いお人や。フン」と心の中でうそぶいておりました。

それから三十数年も経って、先年、私は久しぶりに劔岳に挑戦する機会を得ました。折しも、この年には又しても最新の技術を駆使して劔岳の再測量が行われたそうで、この度のニュースではかの山の標高を「2,999m」（写真③）と伝えておりました。ニュースを聞いた私は昔のことを思い出し「かの先生なら（1mくらいオマケしてくれたらいいのに…）位のこと言うてはるかもしれんなあ。」などと懐かしい恩師を、薄笑いを浮かべながらいたぶっておりました。

ともあれ…私は「3種類の高さの劔岳」に登ったわけで…「こんな男は滅多におらんやろなあ。」てなことを考えてほくそ笑んでおりました。

…あるいは自分の方が、先生よりも了見が狭いのかもかもしれません。